

第6回

研修医川柳コンクール

今年も無事開催されました、宮崎大学研修医の、研修医による、研修医のための(?)「研修医川柳コンクール」。令和元年度に始まった第1回から今年で第6回を迎え、委員長としても嬉しく思います。今年も力作揃いで、駆け出しのお医者さん達が日々悩んだり、感じたりしていることが詠まれたいい川柳ばかりでした。卒後センターのスタッフみんなで微笑ましく思いながら選定したものを発表します！時代は変わっても、研修医の心、医師の心は変わらずに真っ直ぐ前に進むことを祈るばかりです。皆様の心にも響く川柳に乞うご期待！



卒後臨床研修センター 研修医川柳コンクール 委員長 鈴木 翔

最優秀賞

“先生”と 呼ばれど初心は 忘れるな 詠み人 匿名希望

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 森林 耕平

何年目になっても、忘れたくない心構えですね。謙虚さがにじみ出た、堂々の1位に相応しい句でした！

2位

病室の テレビで五輪の 結果知る 詠み人 K・N

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 木許 恭宏

忙しいけど結果が気になるというとき、病室のテレビ見ちゃいますよね。患者さんと仲良くなると病室で一緒に観戦するという手もあります(笑)

3位

気難しい 方ほど寂しい 退院が 詠み人 T・H

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 濱田 朗子

空室になったベッドを見て寂しく思う気持ちにとっても共感できました。一生懸命に患者さんと向き合っている姿が想像できます。

4位

お大事に～ いや待て!帰宅で 良いのかな? 詠み人 S・N

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 緑川 沙樹

次の外来で何ごともなく来院されたときに、心底ホッとすること、あります！

5位

ポケットが 物で溢れる 研修医 詠み人 M・H

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 大平 洋明

ポケットが軽いと、かえって落ち着かないんですね。四次元のやつ、あれば良いのに。

5位

先生と 呼ばれてびっくり 誰の事 詠み人 M・H

選評 選考委員 卒後臨床研修センター 後藤 智子

「先生～」と声を掛けられて気づかずにスルーして、看護師さんに自覚を持ちなさい!と言われたことを思い出しました。研修初期のあるあるをよく表現できていると思います！

特集

レジェンド指導医表彰 病院長表彰

宮崎大学の臨床研修プログラムは2004年から開始となり、2年間の研修修了時に研修医が選出する「ベスト指導医賞」は2006年から開始しました。これまで18回の表彰機会があり、中村禎志先生(潤和会記念病院)、岩切弘直先生(都城市郡医師会病院)はそれぞれ15回選出されています。本院では5回以上の選出者を「レジェンド指導医」と呼称させていただいておりますが、お二人はレジェンド中のレジェンドとなります。そこで、臨床研修制度開始から20年を迎えたこの節目にこれまで本院の研修医育成に大きなご貢献をいただいたお二人に、令和6年10月30日(水)、賀本敏行病院長から「特別功労賞」の授与と受賞インタビューを企画させていただきました。

特別功労賞 表彰式

表彰式では、中村先生と岩切先生の挨拶に加え、賀本病院長からのこれまでの感謝とお礼の言葉があり、これまで研修医を多く受け入れて、指導・育成に尽力いただいた先生方の偉大さを改めて認識できる式典となりました。

本院ではこれからも県内の様々な病院・施設にお世話になり、研修医を育てていくAll Miyazakiの研修体制を維持したいと考えております。

改めて全ての協力型病院・協力施設様に日頃のご尽力に深く感謝を申し上げます。



レジェンド指導医インタビュー



【対象者】

中村 禎志 先生 (潤和会記念病院・麻酔科) 写真中央

岩切 弘直 先生 (都城市郡医師会病院・循環器内科) 写真左

【インタビュアー】

小松 弘幸 先生 (卒後臨床研修センター長) 写真右

1 「特別功労賞」受賞の率直なご感想は？

岩切 各診療領域によって指導アプローチは違うと思いますが、自分としては「研修医を教えている」という意識はなかったですね。むしろ、自分が諸先輩方から受けてきた教えを後輩にも還元したいという気持ちの方が強かったです。

中村 正直なところ、受賞に恥ずかしさもあります(笑)。今回の受賞は、私だけではなく、当院麻酔科や手術室のスタッフ全体に対していただいた賞だと思っています。「職場にいけば楽しく働ける仲間がいる」という雰囲気を研修医にも体感してほしいという思いがあり、それが研修医にも伝わったからではないかと思っています。

岩切 中村先生のおっしゃるとおり、医療はコメディカルスタッフとの連携が重要です。研修医に自分たちの施設のチーム医療を体感してもらい、仕事の楽しさや達成感を味わってほしいという想いが、今回の受賞にも繋がったのかなと思います。また、私が研修医指導にエフォートを割くことができたのは、他の医師のサポートも大きかったお陰であり、その点も重要だと思います。

2 研修指導で心がけていたことは？

中村 端的に言えば、「サイエンス・リテラシー」ですかね。中学・高校の理科の復習を意識しました。医師国家試験に合格している研修医ですが、例えば、molやequivalentが理解できていない、麻酔中の循環動態の原理・原則やモニター中の指標が何を表しているかを説明できない、ということが多々ありましたので、これら一つ一つについて話すようにしていました。そういう基本をきちんと理解していないと、麻酔の術前説明でも様々な背景を持った患者さんにきちんと分かりやすい説明ができないですよ。患者さんから共感が得られない。そこを大切にするように指導していました。実は今だから言えますが、研修医が術前説明を担当する場合、その患者さんに私が事前に一度説明をした上で、「これから研修医が説明に来るので初めての感じで対応して下さい」とやっていた。

岩切 私は今でもオンコール対応をやっていますが、現場では研修医の前でもきつさや辛さを見せず、サラッと振る舞うことは意識していました。そして、自分は循環器専門医である前に医師であるという先輩の言葉も思い出しながら、まずは医師としての態度や佇まいを示すことが大切だと思っていました。研修指導については、研修医のタイプや知識レベルは当然個人差があるのですが、ある水準までどのくらいの期間で到達できるか、その「伸び方・スピード」には注目していました。研修開始時の能力値はあまり関係なく、むしろ現場で知識や技能を吸収していく「伸び方」の方が重要かと思っています。研修医と一緒に学ぶ中で、自分自身の研修医への接し方や教え方も変わっていきました。「教えている」というよりも「一緒に学ぶ」という姿勢が重要だと思っています。



岩切先生

中村 そうですね。研修医はみなさん医師国家試験に合格している力はあるはずなのに、自分で壁を作っている人はもったいないかと思っています。例えば、「私は〇〇の分野は苦手です」と言う研修医に、「もしあなたと同じコピーの医師がいたとして、その医師にあなたが診察されたらどう思いますか」と聞くと、みなさん黙ってしまいます。「患者さんから見れば、医師免許を持ったあなたは研修医ではなく医師として見られていますよ」と言うと、みなさんハツとした顔をされます。

岩切 私も、患者の前では「研修医の〇〇です」とはなるべく言ってほしくないと思っています。私たちも患者さんや医療スタッフの前では、私たちと同等の医師として意識的に接するようにしていて、研修医にも「診断はどう思いますか。これからどう対応しますか」といった感じで話をしています。

中村 その一方で、研修中にある程度の失敗をしてみることは必要なことで、その場合は私たち指導医がしっかりフォローしますので、そういった経験が重要だと思っています。

3 研修医指導で一番ご苦労されたことは？

中村 苦労することは承知の上でしたので、苦労と思ったことはないですね(笑)。

岩切 研修医に任せるより自分でやった方がはるかに早いわけですが

ど、そこをグッと我慢して見守る胆力ですね。これまでは、研修医が夕方に質問に来て、研修医が自分で調べて答えを導けるまで一緒にじっと待って付き合ってきました。ただ、これからは働き方改革の流れもあって難しくなりますね。

中村 働き方改革に関連して、労働への正当な対価は必要だと思います。とは言え、例えばプロ野球選手の自主練は労働？それとも自己研鑽？という線引きは難しい…。これまでは自分の私的な時間を患者さんに捧げることで医師のプロフェッショナルリズムを示すこともできましたが、これからは新しいプロフェッショナルリズムのあり方を考えないといけません。そして、今後はある個人だけが輝いている組織では限界で、組織・チームとして輝けるような育成が重要なことと思っています。

4 宮崎大学の臨床研修制度について思うことは？

中村 この臨床研修制度の運用は大変だろうなと。大学の卒後臨床研修センターには本当に頭が下がります(笑)。私たちは目の前に来た研修をしっかり指導するのみです。

岩切 研修医には、臨床研修の到達目標に示された経験すべき症候・症例のチェックだけではなく、自分のその先の医師としての成長も見据えて研修を頑張ってもらいたいですね。一方で、これは医師だけではなく他の医療職を含めた話ですが、医師という職業適性が合わない方への進路変更を含めたキャリアサポートが必要と思うことがあります。

5 研修医へのメッセージ

岩切 私は医学部入学前は大学工学部に行っていました。今後はAIが進化し、全ての職種で業務内容が変わると思っています。業務に時間がかかっていたものが一瞬でできるようになる。今後10年くらいで医師の診療や研究でもそのあたりの橋渡しをできるように人材が重要となると思います。臨床研修や教育についても、これまでのやり方の踏襲だけではなく、どんどん新しいものを取り入れていく姿勢が大切だと思います。

中村 医者とは例えれば月のようなものだと思います。月は、太陽の光を受けなければ光ることはできません。いろいろな新しい科学技術や病気を治したいと薬剤を開発してくれる人の想い、医療を支える社会制度を太陽の光とすれば、その光を受けて闇夜を照らすのが月ですね。医学の使い方を間違えると日食のようにせつかくの光を遮り、闇をもたらしてしまう。このことを忘れないでほしいと思います。



中村先生

岩切 そうですね。医師は何でも治せるわけではない。患者の傍で立ち会うのみのこともあります。患者さんの最期にどう接するか、寄り添えるかが大切なことだと思います。

小松 本日は、レジェンド指導医のお二人からゆっくりお話を伺う貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。

CHECK!!

令和6年度 宮崎大学医学部5年生 「未来の医療を語るオールみやざき交流会」を開催しました!

令和6年9月6日(金)に宮崎観光ホテルにて、令和6年度 宮崎大学医学部5年生「未来の医療を語るオールみやざき交流会」が開催され、宮崎大学医学部医学科5年生91名が参加しました。

本会は、医学部医学科5年生を対象に、個人の資質を最大限に発揮しながら、医師・研究者として社会貢献を果たすキャリア形成を支援することを目的に、みやざきの地域医療を牽引する関係者が一堂に会し、卒後臨床研修プログラムや専門研修プログラム、医学研究および大学院進学等の情報・交歓の場を提供するという趣旨のもと、宮崎県臨床研修・専門研修運営協議会が主催・運営しています。

まず、鮫島浩宮崎大学長から応援メッセージと題した基調講演があり、次に河野俊嗣宮崎県知事と河野雅行宮崎県医師会会長から学生の皆さんに向けた挨拶がありました。

本院の研修医も数名参加し、歓談の時間では臨床研修に関することや今後のキャリアに向けたことなどを学生とざっくばらんに話し、非常に盛り上がっていました。学生のみなさんも年齢の近い研修医がいることで非常にリラックスして楽しめたのではないかと思います。参加された研修医および指導医の方々、学生さん、そして準備、運営いただいた宮崎県、宮崎県医師会の皆様に心より感謝申し上げます。本会が未来の医療人育成につながっていくことを祈念いたします。



研修医マッチング結果

2025年度研修開始予定の「臨床研修マッチング」が行われ、医師は10月24日(木)、歯科医師は10月22日(火)にマッチング結果が発表されました。

医 師

自主デザイン研修プログラム	25名
小児科研修重点プログラム	0名
産婦人科/周産期研修重点プログラム	0名

歯科医師

歯科医師臨床研修プログラムA	1名
----------------	----

研修医教育カリキュラム実技編(縫合)を実施しました!

2024年8月1日(木)に行った縫合実習では、みなさんの積極的な姿勢が光りました。

短時間のため基礎的な技術に限られましたが、外科ローテートでは、さらに高度な縫合や結紮のテクニックを習得でき、また、縫合技術は一見シンプルですが、実際には奥深く、どの診療科でも必ず役立つスキルです。

私たちと一緒に経験を積み、縫合マスターを目指してみませんか?



行 事 案 内 (12月~4月)

12月	14日(土)・15日(日)	令和6年度指導医のための教育ワークショップ
2月	1日(土)・2日(日)	第118回歯科医師国家試験
	8日(土)・9日(日)	第119回医師国家試験
3月	上旬	医師研修管理委員会及び歯科医師研修管理委員会(修了判定)
	14日(金)	医師・歯科医師国家試験合格発表
	下旬	研修医修了式
4月	1日(火)	令和7年度研修医オリエンテーション

「なんでも掲示板」 原稿募集!

宮崎都市伝説、失敗リカバリー談、研修あるある話など、研修に係わる話ならなんでも原稿募集中です!

連絡先 宮崎大学医学部 医療人育成課 卒後臨床研修係
内線2385/2386

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200
TEL0985-85-1864 FAX0985-85-0693
E-mail:sotugo@med.miyazaki-u.ac.jp

